

## 第27回 愛教研小・中学校道德教育研究大会

# 内面的資質としての道德性を 主体的に養う道德科の授業

令和6年8月9日（金）

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官  
国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官  
堀田 竜次

★ 令和の日本型学校教育

全ての子供たちの可能性を引き出し、  
個別最適な学びと、協働的な学びの実現

・学習指導要領の着実な実施

・ICTが学校教育を支える  
基盤的なツール

研究主題

よりよく生きるための基盤となる道德性が育つ道德教育の研究  
ー 学びがいのある道德科の授業を要として ー

### 【課題別分科会の紹介】

#### 第1分科会について【小学校】【中学校】

最近の教科書に目を通すと、起承転結のある「読み物教材」だけでなく、写真や統計資料を基に考える教材が多く見られるようになり、ねらいとする道德的価値や中心発問を考えるに当たっては、多様な視点が求められるようになってきました。

本分科会では、学習指導要領解説にある「内容項目の指導の観点」に着目し、ねらいとする道德的価値について、児童生徒の発達の段階を踏まえた捉え方を押さえたいと思います。そして、演習では写真や統計資料を用いて、内容項目の捉え方やそれに伴う授業展開について、参加者の方々と一緒に考えていきたいと思っています。

#### 第2分科会について【小学校】

道德科の教材を基に授業を構想する場合、①「教材分析」、②教材分析を受けて指導過程を構成する「中心発問」の吟味、③補助発問やねらいを達成するための「効果的な手法」について考えます。しかし、実際に授業を実践してみると、想定どおりに展開されなかったという経験はありませんか。

本分科会では、模擬授業を通して、授業改善について、参加者の皆様と一緒に研修を深めていきたいと思っています。

#### 第3分科会について【中学校】

学習指導要領解説には、「道德科の特質を生かすことに効果があると判断した場合には、多様な方法を活用して授業を構想することが大切である」と明記されています。物事を多面的・多角的に捉えながら考え、議論することを通して、生徒一人一人が課題解決に向けて話し合うために、問題解決的な学習を取り入れることも効果的な授業構想の一つです。

本分科会では、道德科における問題解決的な学習の工夫について、演習を取り入れながら、研修を深めていきたいと思っています。

## ★ 教育振興基本計画(令和5年6月16日:閣議決定)概要から

### 道德教育の推進

- ・ 自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、「**特別の教科 道德**」を要とした**道德教育を推進**する。国においては、**更なる授業改善と指導力の向上に資するよう**、地方公共団体等との連携の下、優れた授業動画や教材等を集約した**アーカイブの充実**を図るとともに、**高等学校を含めた各学校や地域等が抱える課題に応じた取組を推進**する。

## 道德教育の推進

～よりよく生きるための基盤となる  
道德性を養うために～

### ■ 「特別の教科 道德」を要とした道德教育を推進する

### ■ 更なる授業改善と指導力の向上に資する

- ・ アーカイブの充実

道德教育アーカイブ  
～「特別の教科 道德」の全面实施～



- ・ 各学校や地域等が抱える課題に応じた取組を推進する

## 1. 学習指導要領に基づく教育の着実な実施

## (1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

- ・引き続き主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進め、実生活、実社会の様々な場面で直面する課題について自ら思考し、判断・表現できる力の育成に向けて取り組む。
- ・自立した学習者の育成に向けて、児童生徒一人一人の学習進度や興味・関心等に応じて教材や学ぶ方法等を選択できるような学習に関する国内の好事例の蓄積や情報提供を行う。
- ・児童生徒の学習の基盤となる言語能力の確実な育成に向けて、文章を正確に理解するために必要な語彙、情報の扱い方の確実な定着や各教科等の特質に応じた言語活動の充実を図る。
- ・実社会・実生活の中から問いを見出し、自ら課題を立てて情報を収集・整理・分析してまとめ・表現するような探究的な学びを促進する。

## (2) 理数教育の更なる充実

- ・実生活における課題を数学を使って解決する活動、実社会の問題の中から数学的な側面を見つける活動など、日常生活や社会の事象、数学の事象から問題を見出し主体的に取り組む数学的活動の充実を図る。
- ・理科教育における、日常生活や社会との関連を重視する活動、自然の事物・現象を科学的に探究する活動の充実、及びそれらを行う上で必要となる観察や実験の時間、課題解決のために探究する時間の充実を図る。

## ★ 道徳教育の目標

## 道徳教育の目標

**道徳教育**は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、**自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。**

## 2. GIGAスクール構想の推進と情報教育の更なる充実

## (1) GIGAスクール構想の推進

1人1台端末とクラウド環境による個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図るため、GIGAスクール構想を着実に実施する。

## ①ハード面の整備

- ・1人1台端末について、十分な予備機も含め計画的に更新を実施する。指導者用端末1人1台を確実に整備する。
- ・GIGAスクール構想の阻害要因の一つであるネットワーク環境の改善を図るため、全国的にネットワーク診断(アセスメント)を推進する。

## ②ソフト面の充実

- ・端末活用に関する自治体や学校間格差を解消するため、令和5年度・6年度を集中推進期間と位置付け、国による伴走支援を徹底強化する。(リーディングDXスクール等による効果的な実践事例の創出・横展開等。)
- ・GIGA StuDxチームによるICTを活用した学習指導等の支援活動や、各分野の専門家アドバイザーの派遣を行う。

## (2) 情報教育の更なる充実等

- ・プログラミング教育を充実する。  
(小学校段階からのプログラミング教育の実施、中学校の技術分野においてプログラミングに関する内容を充実、高等学校の必修科目として「情報Ⅰ」を新設、全ての生徒がプログラミング等について学習。)
- ・情報Ⅱの開設や探究学習の強化を図るために高等学校のDX化を全国的に推進する。
- ・情報モラル教育の更なる充実を図る。  
(情報や危険な情報があることを考えさせる学習活動や真偽の検証(ファクトチェック)に関する授業の推進等。)

## ★ 道徳性とは

## 道徳性とは

- **思考や判断、行動などを通してよりよく生きるための営みを支える基盤となるもの**
- **人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指して行われる**道徳的行為**を可能にする**人格的特性**であり、**人格の基盤をなすもの****
- **人間らしいよさであり、道徳的価値が一人一人の内面において統合されたもの**

学校の教育活動全体を通じて行う**道德教育**の中では

補充

学校の諸活動で考える機会を得られにくい**道德的価値**などについて**補う役割**

深化

道德的価値の意味やそれと自己との関わりについて一層考えを**深める役割**

統合

道德的価値に関わる諸事象を、捉え直したり発展させたりして、新たな感じ方や考え方を生み出すという**統合としての役割**

★ 全ての子供たちの可能性を引き出す

答えが一つではない**道德的課題**を一人一人の子供たちが自分自身の問題と捉え、向き合う、「**考え、議論する道德**」への転換、「**主体的・対話的で深い学び**」の視点からの改善が求められる。

道德的諸価値

についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての**考えを深める学習**

令和の日本型学校教育

ICTを効果的に活用して、全ての子供たちの可能性を引き出す

個別最適な学び

協働的な学び

第1章総則の第1の2の（2）に示す**道德教育の目標**に基づき、よりよく生きるための**基盤**となる**道德性**を養うため、**道德的諸価値**についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての**考えを深める学習**を通して、**道德的な判断力、心情、実践意欲と態度**を育てる。

小・中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道德

★ 考え、議論する道德

# 考え、議論する道德

考える  
主体的に  
自分との関わりで

多様な考え方、  
感じ方と出合い  
交流する

自分の考え方、感じ方  
を明確にする

自分の考え方、感じ方  
をより明確にする

**道徳的判断力**

それぞれの場面で善悪を判断する能力

**道徳的心情**

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情

**道徳的実践意欲**

道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き

**道徳的態度**

道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

【小・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編：H29. 7から一部抜粋】

**自己を見つめる**

■ 価値理解

■ 人間理解

■ 他者理解

自分との関わりで捉える

自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、考えを深める

自己理解

- 成長を実感する
- 課題や目標を見つける

**道徳的諸価値について理解する**

■ 価値理解

人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること

■ 人間理解

道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること

■ 他者理解

道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということをも前提として理解すること

**多面的・多角的に考える**

- ・ 多様な感じ方や考え方に接する
- ・ 多様な価値観の存在を前提に考える
- ・ 他者と対話したり協働したりしながら考える

児童自らが、物事を一面的に捉えるのではなく、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにする

自分で考えを深め、判断し、表現する力などを育むのである

## 自己の生き方についての考えを深める

- 児童が道徳的価値に関わる事象を**自分自身の問題**として受け止められるようにする。
- 他者の多様な感じ方や考え方に触れることで身近な集団の中で**自分の特徴**などを知り、**伸ばしたい自己**を深く見つめられるようにする。
- それとともに、これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする**思いや願い**を深めることができるようにする。

### 児童は

道徳的価値の理解を基に自己を見つめるなどの道徳的価値の自覚を深める過程で、同時に**自己の生き方についての考えを深めている**が、特にそのことを**強く意識させる**ことが重要である。

### 教師は

道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考え方などを確かに想起したりすることができるようにするなど、特に**自己の生き方についての考えを深める**ことを**強く意識して指導する**ことが重要である。

## 人間としての生き方についての考えを深める

- 人間にとっての最大の関心は、**人生の意味**をどこに求め、**いかによりよく生きるか**ということにあり、道徳はこのことに直接関わるものである。
- 人間は、**自ら生きる意味や自己の存在価値**に関わることについては、全人格をかけて取り組む。
- 人間についての深い理解と、これを鏡として行為の主体としての**自己を深く見つめる**ことを接点に、生き方についての深い自覚が生まれていく。

ねらいや指導内容についての教師の捉え方を明確にする。

道徳的価値

ねらいや指導内容に関連する児童生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願いを明確にする。

児童生徒の実態

使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法を明確にする。

教材の活用

明確な指導の意図

ア 教材を提示する工夫  
 イ 発問の工夫  
 ウ 話合いの工夫  
 エ 書く活動の工夫  
 オ 動作化、役割演技など  
 カ 表現活動の工夫  
 キ 板書を生かす工夫  
 キ 説話の工夫 等



これらの指導方法の工夫は、児童生徒が表現しやすい状況をつくっていると言える。(学習状況の評価にも生かせる。)

主題名：誰に対しても分け隔てなく  
 教材名：「およげないりすさん」 内容項目：C 公正、公平、社会正義  
 出典：文部科学省「わたしたちのどうとく」小学校1・2年  
 ねらい：誰に対しても分け隔てなく接し、公正、公平にしようとする態度を育てる。

「りすさんは、およげないから だめ。」  
 みんなが、言いました。  
 そして、みんなは 池に 入ると、  
 しまの 方へ およいで 行って  
 しまいました。  
 りすさんは、一人ぼっちに なって  
 しまったので、うちへ 帰りました。  
 みんなは しまに つきました。  
 しまには、すべり台や「ぶらんこが  
 ありました。しかし、あそんで  
 いても、少しも 楽しくありません。

池の ほとりで、あひるさんと かめさんと  
 白鳥さんが、池の 中の しまへ 行って、  
 あそぶ そうだんを して いました。  
 そこへ、りすさんが あそびに 来ました。  
 しまへ 行きたく になりました。  
 そこで、  
 「ほくも いっしょに つれて 行ってね。」  
 と、みんなに たのみました。

およげないりすさん

主題名：誰に対しても分け隔てなく  
 教材名：「およげないりすさん」 内容項目：C 公正、公平、社会正義  
 出典：文部科学省「わたしたちのどうとく」小学校1・2年  
 ねらい：誰に対しても分け隔てなく接し、公正、公平にしようとする態度を育てる。

C 公正、公平、社会正義  
 【第1学年及び第2学年】  
 自分の好き嫌いとらわれないで接すること。

(2) 指導の要点  
 この段階においては、発達的な特質から自己中心的な考え方をしがちである。そのため、人も自分と同じ考え方や感じ方であると考え、異なる考え方や感じ方を否定する傾向がある。こうした自分の好みや利害によって、ともすると公平さを欠く言動をとる姿も見受けられる。  
 指導に当たっては、日常の指導において、公正、公平な態度に根差した具体的な言動を取り上げて、そのよさを考えさせるようにすることが大切である。また、偏見や差別が背景にある言動については、毅然として是正することが必要である。これらの指導を通して、児童が誰に対しても公正、公平に接することのよさを実感できるようにすることが大切である。

【小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 小：H29. 7から一部抜粋】

「やっぱり、りすさんが いた ほうが いいね。」  
 「でも、りすさんは およげないからな。」  
 白鳥さんと あひるさんが 言いました。  
 かめさんは しばらく してから、  
 「うん、いい 考えがある。」  
 と 言いました。  
 つぎの 日、りすさんが、池の ほとりへ  
 行って みると、みんなが あそんで いました。  
 「りすさん、きのうは ごめんね。」  
 「今日は、りすさんも いっしょに しまへ 行こうよ。」  
 白鳥さんと あひるさんが 言いました。

かめさんは、  
 「りすさん、りすさん、ぼくの  
 せ中に のりなさいよ。」  
 と、声を かけました。  
 りすさんは、  
 にこにこしながら、  
 かめさんの せ中に  
 のりました。  
 かめさんの せ中に のった  
 りすさんを かこんで、  
 みんなは しまへ 行きました。

## 道徳的価値

友達など多くの人と関わることのよさや、公正、公平な態度で接することのよさを実感させることが大切である。

各教科等、様々な場面でこの視点で公正、公平、社会正義に関わる指導を行う。

その結果 児童は

よさ

友達と仲よく遊んだり、友達にやさしく接したりすることはできている。

課題

誰に対してもやさしく、公正、公平に接することはまだ難しい。

実態から  
求められること

誰に対しても公正、公平に接することのよさを実感できるように指導していく必要がある。

深化

児童の実態

誰に対しても公正、公平に接することのよさを実感できるように指導していく必要がある。

道徳的価値、児童の実態からどのように教材を活用するか。

## 教材の活用

教材名「おかげないりすさん」 内容項目：C 公正、公平、社会正義  
出典：文部科学省「わたしたちのどうとく」小学校1・2年

誰に対しても公正、公平に接することのよさを自分との関わりで考えさせるために、

りすさんを囲んで島へ向かうみんなの思いを考えさせたい。

指導方法の工夫

発問構成

役割演技

ワークシート

等

指導方法の工夫

発問構成

役割演技

ワークシート

等

(例) 道徳的行動に関する体験的な学習

中心的な発問

りすさんを囲んで島へ向かうみんなはどんな気持ちだったでしょうか。

価値理解

前後の発問 (前後の学習)

→ りすさんに「ぼくもいっしょにつれて行ってね。」とたのまれたとき、みんなはどんな気持ちだったのでしょうか。

人間理解

→ 島で遊んでいるとき、みんなは、どんなことを思っていたのでしょうか。

他者理解

予想される児童の発言

→ 仲間はずれにしてごめんね。  
→ みんなで遊ぶのは楽しいな。  
→ 意地悪してごめんね。 等

## 問題解決的な学習… (例) 生徒の実態

(例) 5月の遠足での様子

- 時間を守って行動することができなかった。(13人)
- 必要のない物を持っていった。(7人)
- けんかをした(3人)

(例) 事前アンケート

「きまりがあっても守れないのはどうしてか。」

- 自分の好きなことをやりたい。
- きまりがあることを忘れていた。
- きまりはなくてもいいと思っている。

主題名：社会に生きる一員として  
 教材名：「二通の手紙」 内容項目：C 遵法精神、公德心  
 出典：文部科学省「私たちの道徳」中学校  
 ねらい： 法やきまりの意義を理解し、秩序と規律ある社会を実現しようとする態度を育てる。

### 教材の概要

主人公の元さんは、動物園の規則を知っていながら、幼い姉妹の思いに同情し、入園を許してしまう。元さんの行為は、母親からは感謝されることになったが、規則を破って入場させたことから大騒ぎとなり、その結果懲戒処分を受けることとなった。

姉妹の母から届いた感謝の手紙と動物園側から届いた懲戒処分の通告書。元さんが手にした「二通の手紙」は、社会における人間としての生き方について考える機会を与える。

本教材は、心の葛藤を引き起こす内容であり、社会における法やきまりの意義について深く考えることのできる教材である。

## ★ 問題解決的な学習の工夫

主題に対する生徒の興味や関心を高める導入の工夫、他者の考えと比べ、自分の考えを深める展開の工夫、主題を自分との関わりで捉え自己を見つめ直し、発展させていくことへの希望がもてるような終末の工夫などがある。

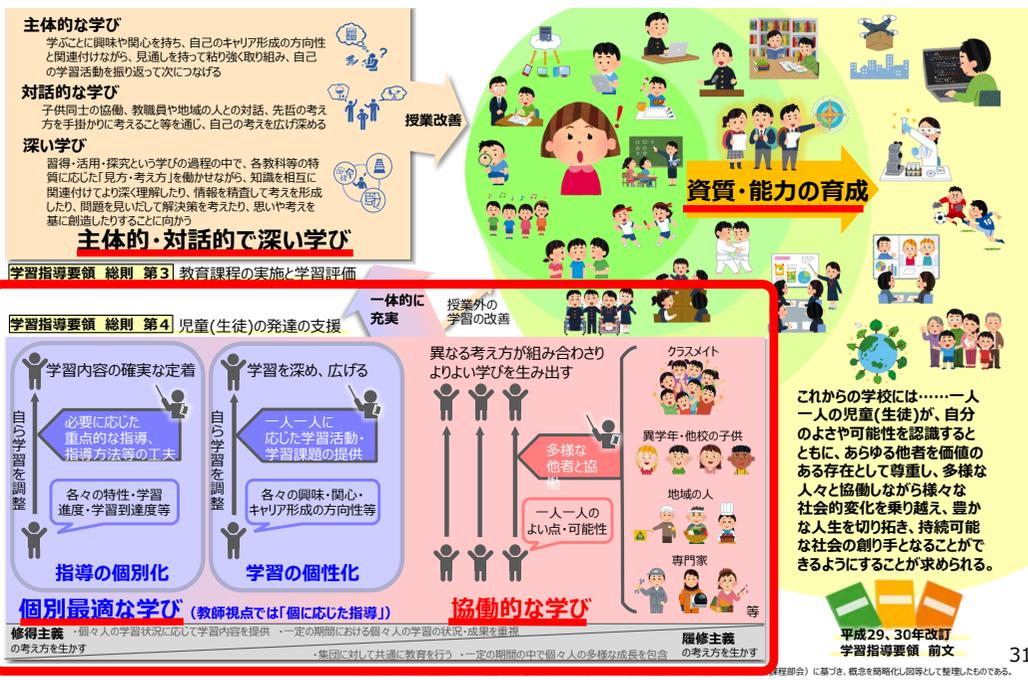
教師と生徒、生徒相互の話合いが十分に行われることが大切であり、教師の発問の仕方の工夫などが重要である。

道徳科で問題解決的な学習を取り入れた場合には、その課題を自分との関わりや人間の生き方との関わりで見つめたときに、自分にはどのようなよさがあるのか、どのような改善すべきことがあるのかなど、

**生徒一人一人が道徳上の課題に対する答えを導き出すことが大切である。**

【中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編：H29. 7から一部抜粋、下線は掘田】

## ★ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実(イメージ)



## ★ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

未来の社会を見据え、児童生徒の資質・能力を育成するに当たっては、このような学習指導要領の趣旨を踏まえ、**「個別最適な学び」と「協働的な学び」という観点から学習活動の充実の方向性を改めて捉え直し、これまで培われてきた工夫とともに、ICTの新たな可能性を指導に生かす**ことで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていくことが重要と考えられます。

学習指導要領の趣旨の実現に向けた  
 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料

★ 児童が主体的に道徳性を養うための指導

年度当初に、道徳科の学習全体を見通し、学年始めの自分の有様やこれからの自らの課題や目標を捉えるための学習を行うことも効果的である。そして、その望ましい自分の在り方を求めて、年度途中や年度末に、それまでの学習や自分自身を適宜振り返ることで、自らの道徳的な成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりする学習を工夫することもよい。そのことによって、道徳的価値や自らの生き方について引き続き考え続ける態度を養い、一層長い期間の中で、主体的で意欲的に生き方を学ぶ道徳科の学習とすることができる。

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P92

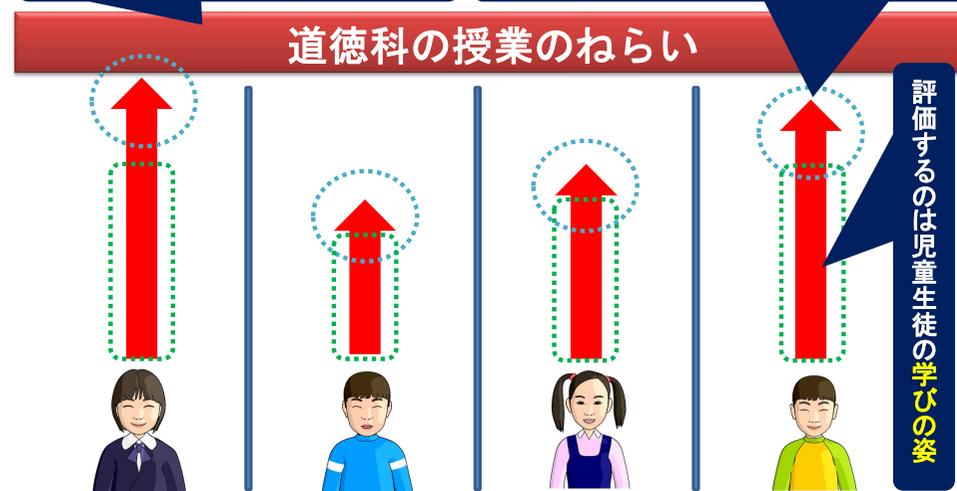


★ 道徳科における児童生徒の学習状況及び成長の様子についての評価

成長を受け止めて認め、励ます**個人内評価**

道徳的価値の理解を基に、道徳性の様相を育てること

評価規準はなく、達成度は評価できない



★ 道徳科における児童生徒の学習状況及び成長の様子についての評価

個人内評価として見取り、記述により表現することの基本的な考え方

■ 児童生徒が**一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展**させているかどうかという点



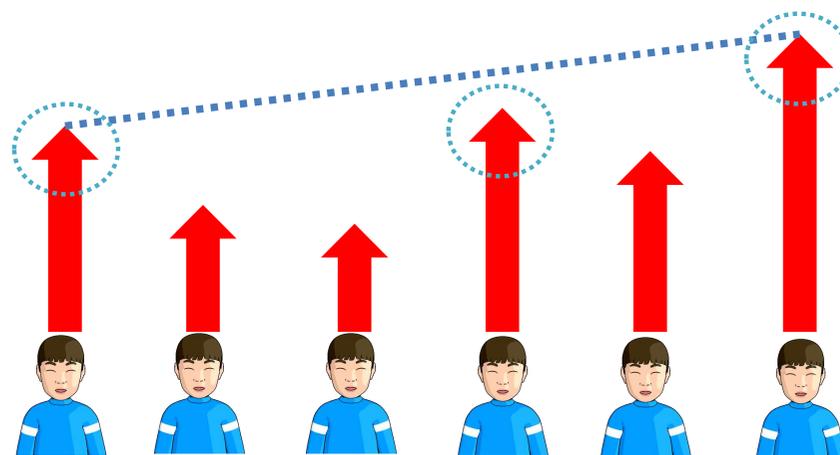
■ 道徳的価値の理解を**自分自身との関わりの中で深めている**かどうかという点



★ 道徳科における児童生徒の学習状況及び成長の様子についての評価

個々の内容項目ごとではなく、**大きくくりなまとまり**を踏まえる

第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回



学習状況や道徳性に係る成長の様子を**継続的に**把握

★ 道徳科における児童生徒の学習状況及び成長の様子についての評価

■ 個人内評価として見取り、記述により表現することの基本的な考え方

- **発言が多くない児童生徒や考えたことを文章に記述することが苦手な児童生徒**が、教師や他の児童生徒の発言に聞き入ったり、考えを深めようとしたりしている姿に着目するなど、**発言や記述ではない形で表出する児童生徒の姿に着目する**ということも重要である。

【小・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 H29. 7から一部抜粋】

★ 教師の授業に対する評価の観点の例

- ア 学習指導過程は、道徳科の特質を生かし、道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自己の（人間としての）生き方について考えを深められるよう適切に構成されていたか。また、指導の手立てはねらいに即した適切なものとなっていたか。
- イ 発問は、児童（生徒）が（広い視野から）多面的・多角的に考えることができる問い、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど、指導の意図に基づいて的確になされていたか。
- ウ 児童（生徒）の発言を傾聴して受け止め、発問に対する児童（生徒）の発言などの反応を、適切に指導に生かしていたか。
- エ 自分自身との関わりで、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考えさせるための、教材や教具の活用は適切であったか。
- オ ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるための指導方法は、児童（生徒）の実態や発達の段階にふさわしいものであったか。
- カ 特に配慮を要する児童（生徒）に適切に対応していたか。

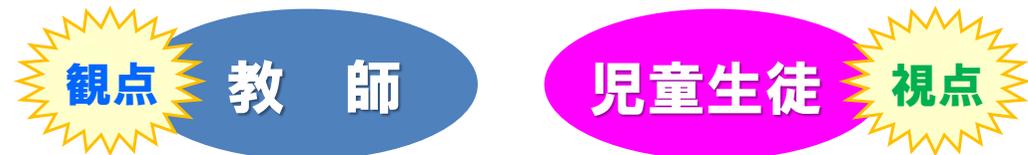
★ 道徳科における児童生徒の学習状況及び成長の様子についての評価

■ 発達障害等のある児童生徒や海外から帰国した児童生徒、日本語習得に困難のある児童生徒等に対する配慮

- 道徳科の評価は他の児童生徒との比較による評価や目標への到達度を測る評価ではなく、**一人一人の児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価**として行うことから、このような道徳科の評価本来の在り方を追究していくことが、**一人一人の学習上の困難さに応じた評価**につながるものと考えられる。

【小・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 H29. 7から一部抜粋】

★ 道徳科における評価の意義



教師が指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるもの

自らの成長を実感し意欲の向上につなげていくもの

指導に生かされ、児童生徒の成長につながる評価でなくてはならない。

指導と評価の一体化